

タイトル	献辞・内田昌利教授の略歴・研究業績
著者	
引用	北海学園大学経営論集, 11(4)
発行日	2014-03-25



内田昌利教授



## 献 辞

経営学会長 佐藤 淳  
経営学部長  
経営学研究科長 石井 耕

内田昌利先生におかれましては、平成26年3月31日をもってご退職されることとなりました。先生のご退職にあたり、経営学部・経営学研究科ならびに経営学会は、これまでに先生から賜ったご指導とご厚誼とに深甚なる謝意を表すため、退職記念論文集の刊行を企画いたしました。ここに謹んで本書を先生に献呈いたします。

内田先生は、昭和48年2月に本学へ着任以来、41年間に渡って本学の教育と研究に多大なる貢献を遺されました。加えて、経済学部長、経営学研究科長、そして経営学部長を歴任され、今日の北海学園大学の発展をまさに主導されてきました。

周知のように、経営学部は経済学部経営学科を母体として、北海学園大学の5つめの学部として設置されましたが、そこに至る経緯は決して平坦なものではありませんでした。はじめに学部構想が全学的に承認されたのち、教員組織の充実のためとして、それに先立って大学院経営学研究科の設置が求められることとなりました。これはすなわち、学部開設の基礎を大学院におくという他に類をみない困難な課題でしたが、このとき、内田先生はその困難をものともせず、大いなる熱意と責任感をもって力を尽くされ、平成12年に修士課程、平成14年には博士（後期）課程の設置を、研究科長として立て続けに成し遂げられました。そしてさらに、その充実した教員組織とカリキュラムとを基にして、全国でも稀なる魅力を有する経営学部を、こんどは学部長として、平成15年に開設されました。いま振り返れば、この時期の内田先生のご心労たるや察するに余りありますが、そのようなときも内田先生は周囲にお疲れを見せることは一切なく、つねに我々を鼓舞し続け、力強いリーダーであり続けました。今日の経営学部と経営学研究科は、この内田先生の奮励努力の上に成り立っていることを、我々は将来に渡って忘れることはできません。

一方、内田先生が研究者として遺されたご功績についても触れておかねばなりません。昭和48年に着任された当時は、先生のご専門である管理会計の研究者は道内に少なく、研究環境としては必ずしも良好とはいえなかったと拝察いたします。そのような状況において、内田先生は北海道での管理会計研究の発展に寄与され、以降はこの分野の中心的な研究者として先導されてこられました。内田先生の管理会計研究の要諦は、「予算がその組織の体を表す」ことにあると考えます。すなわち、内田先生は管理会計の中心的課題である予算管理・利益計画をマネジメントを行うに肝要な一環としてとらえ、そこから予算の持つコントロール機能を本源的なもののみならず、これまでの通説では目を向けられなかった側面から、予算の本質について主張されてこられました。「予算を見れば何をやりたいのかがわかる」とのお言葉は、先生からの貴重な教えとして、いまでも私の中に生き続けています。さらに先生は、組織が有効に機能するためには、人間的な問題、すなわち心理学的、社会学的問題が管理問題として解決されなければならないと考察され、そのお考えが「行動会計」科目の開設に反映されるとともに、心理学研究を大幅に取り入れた経営学部の特色あるカリキュラムとして結実しました。このよう

に、真摯に物事の本質を探求される先生の学究的姿勢は、研究と教育とに一貫した繋がりの上に、常に現れ出でていたように思います。

また、学部の講義やゼミ、大学院での研究指導においては、ややもすると技術的側面が強調される会計学に、組織マネジメントや社会との関連を重視した学問体系としての管理会計研究を熱心に紹介され、多くの学生の魂に響く教育をされました。指導を受けた卒業生はいま、社会において公認会計士や税理士、大手企業の役員などとして大いに活躍しています。さらに先生は、12年間に及ぶ学校法人北海学園の評議員として、学園全体の運営に関して専門の立場から多くの意見を述べられ、今日の学校法人の発展にも寄与されました。

以上のような多岐に渡るご功績に加え、内田先生は我々教員にも「大学教員としてのあるべき姿」を身をもってご教示くださいました。かく申す私も、職業人生に関わる多くのことを先生から学びました。感謝の念は言葉では尽くせませんが、先生がお創りになられた経営学部と経営学研究科とをさらに前進させていくことをお約束して、ご恩に報いたいと思います。

最後に、いまの率直な心情をここに記して、結びに代えさせていただきます。私には、未だ先生が本学を去られることへの実感が湧きません。今でも、7号館10階の一番奥の研究室で、私が相談に訪れるのを待ってくださっているような気がしてなりません。どうか今後とも、折に触れご教示いただき、お見守りくださいますよう、衷心よりお願い申し上げます。

なお、本書の刊行にあたっては、学内外のゆかりの方々にご寄稿をお願いし、ご快諾を賜って玉稿を取載することができました。また、本書の企画と編集については、高木裕之教授をはじめ、論集委員の増地あゆみ教授、佐藤芳彰教授、ほか多くの方々にご尽力いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

平成26年3月末日

うちだまさとし  
**内田昌利教授 略歴・研究業績**

うちだまさとし  
内田昌利 (1944年2月24日生)

**学 歴**

- 1966年3月 明治大学商学部商学科卒業 (商学士)
- 1969年3月 明治大学大学院商学研究科商学専攻修士課程修了 (商学修士)
- 1972年3月 明治大学大学院商学研究科商学専攻博士課程単位取得満期退学
- 1998年2月 博士 (商学) (明治大学) 学位記番号第56号

**職 歴**

- 1973年2月 北海学園大学経済学部専任講師 (管理会計論)
- 1975年4月 北海学園大学同助教授
- 1981年4月 北海学園大学同教授 (2003年3月に至る)
- 1981年4月 北海学園大学大学院経済学研究科修士課程担当
- 1985年4月 シドニー大学客員研究員 (1年間)
- 1996年4月 北海学園大学経済学部長併任 (3年間)
- 2000年4月 北海学園大学大学院教授経営学研究科修士課程担当 (現在に至る)
- 2002年4月 北海学園大学大学院教授経営学研究科博士 (後期) 課程担当 (現在に至る)
- 2000年4月 北海学園大学大学院経営学研究科長併任 (3年間)
- 2003年4月 北海学園大学経営学部教授 (現在に至る)
- 2003年4月 北海学園大学経営学部長併任 (3年間)
- 1999年4月 札幌大学大学院経営学研究科修士課程兼任講師 (現在に至る)
- 2001年6月 学校法人北海学園評議員 (12年間)

**所属学会**

日本会計研究学会, 日本経営学会, 北海道経済学会, 日本会計史学会, The American Accounting Association 他

**研究業績**

**著書**

- 1 管理会計論 (共著) 1985年2月 森山書店
- 2 現代簿記 (共著) 1991年5月 森山書店
- 3 行動管理会計論 1997年7月 森山書店
- 4 行動管理会計論 (第2版) 2003年1月 森山書店

**訳書**

- 1 ウェルズ原価計算論の視座 (共訳) 1992年9月 同文館  
(M. C. Wells, *Accounting for Common Costs*)

論文

- 1 コマンドー理論の構造 1971年9月 會計
- 2 伝統的経営組織論の一反省 1972年6月 経理知識（明治大学経理研究所）
- 3 モティベーション会計—責任会計のモチベーション効果について— 1974年3月 経済論集（北海学園大学）
- 4 モティベーション会計—ステドリーらの現場研究— 1974年6月 経済論集（北海学園大学）
- 5 モティベーション会計の研究(1)—A. C. ステドリーの二重予算制度論について— 1974年9月 経済論集（北海学園大学）
- 6 モティベーション会計の研究(2)—A. C. ステドリーの二重予算制度論について— 1975年3月 経済論集（北海学園大学）
- 7 公式的会計統制システムにおける業績指標をめぐる若干の問題(1) 1975年10月 経済論集（北海学園大学）
- 8 モティベーション会計論序章—モチベーション会計研究の意義について— 1976年1月 経済論集（北海学園大学）
- 9 公式的会計統制システムにおける業績指標をめぐる若干の問題(2) 1976年9月 経済論集（北海学園大学）
- 10 予算統制の期待理論的接近—J. ローネン&J. L. リビングストンの所論によせて— 1977年7月 経済論集（北海学園大学）
- 11 R. N. アンソニーの管理会計の体系(1)—管理会計の体系化のための分析の枠組— 1977年10月 経済論集（北海学園大学）
- 12 R. N. アンソニーの管理会計の体系(2)—管理会計の体系化のための分析の枠組— 1978年3月 経済論集（北海学園大学）
- 13 管理会計と人間関係論との交流—F. J. レスリスバーガーの所説をめぐって— 1980年10月 経済論集（北海学園大学）
- 14 レスリスバーガーらにみる標準および予算統制システムをめぐる人間問題 1981年11月 経済論集（北海学園大学）
- 15 アーギリスの企業予算批判にたいするレスリスバーガーの反応 1982年3月 経済論集（北海学園大学）
- 16 管理会計の固有の機能にかんする一試論 1982年12月 経済論集（北海学園大学）
- 17 予算管理の基礎 1983年12月 経済論集（北海学園大学）
- 18 原価管理の基礎 1984年1月 経済論集（北海学園大学）
- 19 利益計画の基礎 1984年10月 経済論集（北海学園大学）
- 20 設備投資計画決定の基礎 1985年1月 経済論集（北海学園大学）
- 21 The Development of Management Accounting in Japan—from 1920s through 1960s— 1986年7月 経済論集（北海学園大学）
- 22 直接原価計算の特質と問題点—全部原価計算との比較考察— 1987年10月 経済論集（北海学園大学）
- 23 J. P. Jordan の予算統制論（1927）—初期予算統制論にみる「人間要素」への着目— 1989年8月 経済論集（北海学園大学）
- 24 J. L. Peirce の予算統制肯定論（1954）—初期人間関係論からの企業予算批判に対する会計人側の接触とその論理への吸収・同化の端緒— 1991年3月 経済論集（北海学園大学）
- 25 G. A. Welsch 予算管理原則論の行動的側面—予算管理原則における「人間関係」要素の吸収・同化— 1992年7月 経済論集（北海学園大学）
- 26 予算管理論における行動的研究の先駆的系譜 1992年10月 経済論集（北海学園大学）

- 27 行動会計論の先駆的系譜—予算管理論との関連において— 1993年6月 会計
- 28 行動会計論2題 1993年9月 経済論集(北海学園大学)
- 29 行動会計研究の展開 1994年9月 経済論集(北海学園大学)
- 30 予算のパラドクシカルな役割 1995年8月 会計
- 31 管理会計の社会心理学的研究 1995年12月 経済論集(北海学園大学)
- 32 Chris Argyrisの企業予算批判 1996年7月 経済論集(北海学園大学)
- 33モチベーションのための統制予算—A. C. Stedry (1960)の統制予算論:再論— 1996年10月 経済論集(北海学園大学)
- 34 行動管理会計論の学説展開—行動的予算管理論の先駆的研究とその後の学説展開についての概要— 1996年11月 私学研修
- 35 行動的予算管理学説の展開 1998年2月 博士学位論文(明治大学)
- 36 予算の意味づけ機能について—予算の多面的機能の研究:序説— 1999年6月 経済論集(北海学園大学)
- 37 会計における組織社会学的研究 2000年1月 明大商学論叢
- 38 管理会計と人間行動 2000年7月 経済論集(北海学園大学)
- 39 組織論と管理会計研究—管理会計の多面性に関する研究— 2001年3月 経済論集(北海学園大学)
- 40 管理会計と歴史理解—管理会計の適合性に関する歴史的視座— 2002年3月 経済論集(北海学園大学)
- 41 マネジメント・アカウンティング・イン・アクション研究の方法論的基礎 2004年3月 経営論集(北海学園大学)
- 42 管理会計研究の批判的視座と歴史理解 2004年『現代会計』創成社 所収
- 43 財務的業績目標と文化的要因 2008年6月 経営論集(北海学園大学)
- 44 管理会計と文化 2009年2月 明大商学論叢
- 45 企業予算の本質的役割とその管理機能の発現 2011年9月 経営論集(北海学園大学)
- 46 ストレッチ・バジェットिंगの発現形態—わが国企業における予算の統制機能をめぐって— 2013年3月 経営論集(北海学園大学)
- 47 予算の管理機能とストレッチ・バジェットिंग—二重予算は存在するか— 2014年2月 会計

#### 学会発表

- 1 A. C. ステッドリーの予算統制論の意義 1974年11月 日本会計研究学会北海道部会
- 2モチベーション会計研究 1975年11月 北海道経済学会
- 3 組織のコントロール・システムとしての管理会計の特質 1976年7月 日本経営学会北海道部会
- 4 アーギリスの企業予算批判にたいするレスリスパーガーの反応 1982年5月 日本会計研究学会北海道部会
- 5 The Development of Management Accounting in Japan 1986年3月 University of Sydney Accounting Research Centre
- 6 行動会計論の先駆的系譜—予算管理論に関連して— 1992年9月 日本会計研究学会第51回大会
- 7 ストレッチ・バジェットिंगの発現形態 2011年10月 日本会計研究学会北海道部会